

授業科目	健康の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する						
学習目標	慢性疾患をもち生涯セルフコントロールを必要とする対象の特徴を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ						
授業内容 (講義)の内容	<p>【慢性腎不全】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓機能、腎不全とその症状の看護 2. 慢性腎臓病の看護 3. 血液透析の看護 4. 透析の条件・バスキュラーアクセスの看護 5. 血液透析患者の指導 6. 腹膜透析の看護 7. 腎移植の看護 8. 試験(1～7) <p>【糖尿病】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 糖尿病の特徴と看護 10. 糖尿病とインスリン 11. 食事療法の支援 12. 運動療法の支援 13. 糖尿病の急性合併症と看護 14. 糖尿病の慢性合併症と看護 15. 演習：自己血糖測定 16. 試験(9～15) 					担当者(時間)	
						看護師(15)	
						看護師(15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 (医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研)						
備考	演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	障害をもちながら生活する人を支援する看護	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する						
学習目標	ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を理解し、障害受容と生活再構築への看護を学ぶ						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳がん患者の看護 2. 乳がんの治療とその看護 3. 乳房切除術を受けた患者の看護 4. 乳がん患者の術後の経過と術後の補助治療の看護、退院指導 5. ボディイメージの変容、乳房の補整、リンパ浮腫について バンテージ演習 6. 試験(1~5) 7. 人工肛門造設術を受ける患者の看護、術前ケア 8. 人工肛門造設術を受ける患者の看護、術後ケア 9. ストーマケア・管理 10. ストーマケア 演習 11. 試験(7~10) 12. 脳梗塞により障害をもちながら生活すること 脳梗塞の病態と種類による特徴と機能障害の看護 13. 脳梗塞の急性期治療を受ける患者の看護 14. リハビリテーションとの連携と生活行動の援助 15. 生活の再構築と障害受容 16. 社会復帰と退院支援 17. 試験(12~16) 					担当者(時間)	
						看護師(6)	
						看護師(5)	
						看護師(9)	
						専任教員(10)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[1]	成人看護学総論	(医学書院)		
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[5]	消化器	(医学書院)		
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[7]	脳・神経	(医学書院)		
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[9]	女性生殖器	(医学書院)		
備考	演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	人生の最期のときを支える看護 (生命を支える看護)	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する。						
学習目標	近い将来、死を免れない対象の特徴を理解し、苦痛の緩和と安らかな死への看護を学ぶ						
授業内容 (講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアとは 2. 緩和ケア 精神的ケア 3. 事例展開 4. 緩和ケアの現状 5. 症状マネジメントで大切なこと 6. 事例展開 7. 試験(1~6) 8. 放射線科の紹介、放射線療法について 9. 被曝防護と放射線治療、有事事象について 10. 急性有害事象、骨転移について 11. 試験(8~10) 12. がん化学療法に伴う骨髄抑制と看護ケア 13. がん化学療法に伴う末梢神経障害と看護ケア 14. 事例検討 がん化学療法を受ける患者の看護 15. 化学療法論 投与管理・暴露対策・支持療法(悪心・嘔吐) 16. 副作用対策(悪心・嘔吐)、暴露対策 17. 試験(12~16) 					担当者(時間) 看護師 (13) 看護師 (7) 看護師 (6) 看護師 (4)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) ステップアップがん化学療法看護(学研) 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論 (医学書院) 別巻緩和ケア(医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研) がん放射線療法の理解とケア(学研)						
備考							

授業科目	成人看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期
設定理由	人はさまざまな健康レベルを移行しつつ生活している。たとえ疾病や障害があっても、「そのときその状況下におけるその人にとってのすこやかな状態」は存在する。成人看護学の知識を統合し、看護過程の応用展開と実習への移行を容易にするため、成人期にある人々のもつ健康課題を理解し、要因を分析して対象とその家族に対する援助の必要性を見出すための思考のプロセスを学ぶ						
学習目標	1. 健康障害のある患者の特徴と看護問題、援助方法を理解する 2. 事例をとおして、患者の状態を判断し、健康上の問題・課題の解決をはかるための援助が行える						
授業内容（講義ごとの内容）	【慢性期看護】 1. 健康レベルに対応した看護の方向性の導きだし方 慢性期とは、慢性期看護とは 2. 慢性期にある成人患者への看護実践 健康障害とともに生活する人への教育 慢性症状に伴う苦痛の緩和や癒しのケア 3～7. 糖尿病患者の看護過程 糖尿病患者のアセスメント、看護計画立案、患者指導の演習 8. 試験(1～7) 【周手術看護】 1. 健康レベルに対応した看護の方向性の導きだし方 急性期とは、急性期看護とは 2. 急性期にある成人患者への看護実践 周手術期の身体侵襲の理解 術後合併症の予防の看護 3～6. 胃がん患者の看護過程 演習ガイダンス、情報収集・情報の分類、全体像、アセスメント、看護問題の明確化 7. 手術直後の全身状態の観察（技術演習） 8. 試験(1～7)					担当者（時間）	
						【慢性期看護】 専任教員（15） 【周手術看護】 専任教員（15）	
評価	筆記試験 課題レポート						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヒロカワ・ヌーベル）						
備考	実習に備えた課題演習を行う 演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	成人看護学実習 I (慢性期にある対象の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	2年次 1学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の実践を通して学ぶ						
学習目標	慢性疾患を持ち生涯セルフコントロールを必要とする対象の特徴を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ						
授業内容 (講義)との内容	<p>受け持ち患者の看護：慢性期の患者を受け持ち、看護過程の展開を用いて看護を実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある成人期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる 慢性期にある対象の身体的状態に応じた看護が実践できる 慢性期にある対象及び家族の精神的・社会的状況に応じた看護が実践できる 慢性期にある対象をとりまくチームにおける看護及び他職種の機能・役割を理解する 看護学生として責任ある行動がとれる 					担当者(時間)	専任教員
評価	実習評価表にて評価する						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						

授業科目	成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の実践を通して学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 周手術期にある成人期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2 周手術期にある対象の身体的状態に応じた看護が実践できる。 3 対象および家族の精神的・社会的状況に応じた看護が実践できる。 4 対象をとりまくチームにおける看護および他職種の機能・役割を理解できる。 						
授業内容(講義)との内容	<p>看護過程の展開技術を用いて科学的思考に基づいた援助を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手術による身体侵襲からの回復促進への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術による精神的苦痛の緩和 2) 手術による身体的苦痛の緩和 3) 術後の生活行動拡大への援助 4) 治療・検査時の援助 5) 家族への対応 2 障害受容と生活の自立への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活行動獲得への援助 2) 障害受容への援助 3) 社会生活適応にむけての援助 						担当者(時間)
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						

授業科目	成人看護学実習Ⅲ (終末期にある対象の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1学期～2学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の方法について実践をとおして学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面からそれぞれの苦痛をもつ全人的苦痛のある存在として理解できる 2. 終末期にある対象の身体的状態、及び、精神的・社会的・スピリチュアルな状況に応じた看護ができる 3. 終末期にある対象を取り巻く看護、及び、多職種における機能と役割を理解する 4. 看護学生としての責任ある行動がとれる 						
授業内容(講義)ことの内容)	看護過程の展開技術を用いて科学的思考に基づいた援助を行う <ol style="list-style-type: none"> 1. 全人的な苦痛の緩和と安らかな死への援助 (苦痛を最小限にし、生きることへの援助) <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的苦痛の緩和 2) 精神的苦痛の緩和 3) 社会的苦痛の緩和 4) スピリチュアルな苦痛の緩和 5) QOL向上 6) 家族への配慮 					担当者(時間)	
						専任教員	
評価	実習評価表にて評価する						
テキスト							
備考	体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。学習した内容が統合・活用できるように、実技演習した基本的技術をさまざまな条件をもった対象を想定して応用できるように練習しておきましょう						

授業科目	老年看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 2学期
設定理由	高齢者の看護学を行うには、高齢者を生物学的・社会的な変化の中で捉え、老いて生きる人々の生活とそれを取り巻く社会の視点で高齢者の多様性を理解する必要がある。様々な障害をもつ高齢者の健康と生活を支える看護を実践していくための基本的な考え・知識を学ぶ						
学習目標	<p>老年期の加齢による特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する。</p> <p>加齢に伴う生理的機能低下に伴う健康問題について理解する。</p>						
授業内容（講義）との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いるということ、老いを生きるということ 2. 高齢者疑似体験（演習） 3. 高齢者疑似体験の振り返り加齢と老化（身体的・心理的・社会的） 4. 老年看護の成り立ち 5. 高齢者のヘルスアセスメントの基本 6. 高齢者のヘルスアセスメント （身体に加齢変化とアセスメント） 7. 健康逸脱から、復を促す援助 （症候のアセスメントと看護） 8. 健康逸脱から、復を促す援助 （身体疾患のある高齢者の看護） 9. 健康逸脱から、復を促す援助 （認知機能障害のある高齢者の看護） 10. 治療を必要とする高齢者の看護（検査・薬物・手術） 11. 治療を必要とする高齢者の看護（リハビリ・入院） 12. エンド・オブ・ライフケア 13. 高齢者のリスクマネージメント 14. 生活・療養の場における看護 15. 科目のまとめ学習/試験 					<p>担当者（時間）</p> <p>専任教員（30）</p>	
評価	<p>筆記試験</p> <p>課題提出（詳細は講義時に説明する）</p>						
テキスト	<p>専門Ⅱ 老年看護学（医学書院）</p>						
備考							

授業科目	老年保健	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	近年の急速な少子高齢社会の動向により、老年期にある人が地域で生活するための健康への支援が看護に求められている。そのため、社会における高齢者の動向を知り、社会保障制度を理解し看護実践に必要な看護の方法を学ぶ。						
学習目標	老年の保健医療福祉の場における問題を理解し、看護の機能と役割を理解する。						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会と社会保障 2. 高齢者の死亡について 3. 介護保険制度のしくみ 4. 高齢者医療のしくみ 5. 高齢者とヘルスプロモーション 6. 介護保健施設について 7. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 8. 試験 					担当者(時間)	
						保健師(15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 国民衛生の動向						
備考							

授業科目	老年看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期
設定理由	老年期の看護の対象に応じた看護実践ができるために健康の段階と加齢に応じた高齢者の日常生活援助を学ぶ						
学習目標	加齢変化などによる生活機能障害や健康問題の理解を深め、その解決、または生活の質の維持・向上のための看護援助の基礎となる知識と技術を習得する						
授業内容 (講義)との内容	1・2. 日常生活を支える基本的活動 3・4. 高齢者とのコミュニケーション 5. 高齢者の食事・食生活 6. 高齢者の排泄ケア 7. 高齢者の清潔ケア 8・9. 高齢者の生活リズム 10. 高齢者におけるセクシュアリティ 11. 高齢者の社会参加 12～14. 入院している高齢者の看護実践 1) パーキンソン病患者の看護 2) ALSで人工呼吸管理を必要とする在宅療養をする患者の看護 15. 科目のまとめ/試験					担当者(時間) 専任教員(23) 看護師(7)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 写真でわかる高齢者ケア (インターメディカ) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経						
備考	演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	老年看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1・2学期
設定理由	老年期における代表的な疾患をもとに必要な看護技術をふまえて看護実践方法を学ぶ						
学習目標	老年期における対象の健康上の問題を明らかにし、援助の方法を理解する						
授業内容 (講義)との内容	1. 老年期の特徴と課題 1) 事例設定と対象理解 2. 3. 老年期に受傷しやすい疾患の理解 1) 大腿骨頸部骨折の症状 2) 大腿骨頸部骨折の診断と治療 3. 4. 5. 急性期・回復期における高齢者の看護(大腿骨頸部骨折) 1) 入院時～手術前 2) 手術後 3) リハビリテーション 4) 患者教育と退院指導 4. 試験(1～5) 7. 認知症とは 8. 認知症の基本構造 9. 認知症の診断と認知症の評価 10. 認知症の予防と治療 11. 認知症の看護 12. 試験(7～11) 13. 肺炎 誤嚥性肺炎 14. 摂食・嚥下障害看護 15. 高齢者における食事アセスメント・食事ケア 16. 高齢者における食事アセスメント、食事ケア、 17. 事例紹介 18. 試験(12～17)					担当者(時間)	
						専任教員(10) 看護師(13) 看護師(7)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 疾患別看護過程の展開(学研) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院)						
備考	・演習に関しては複数講師で対応する。						

授業科目	老年看護学実習 I (健康な老年の理解)	単位	2	時間	90	履修時期	2年次 2学期
設定理由	対象を個別的な存在として理解するために健康の保持増進のための看護を学ぶ						
学習目標	健康な老年期にある対象の理解を深め、健康の保持増進のための看護方法を理解する						
授業内容 (講義)との内容)	1. 健康な高齢者の理解 2. 施設で生活している高齢者の理解 3. 施設で生活している高齢者の健康保持増進の方法 4. 加齢に伴う生理的機能低下の理解					担当者 (時間)	専任教員
評価	対象者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢等、評価表に基づいて評価します						
テキスト							
備考							

授業科目	老年看護学実習Ⅱ (入院療養中の老年の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	2年次 2学期
設定理由	老年期の健康障害がある対象を総合的にとらえ、対象に応じた看護ができるように学ぶ						
学習目標	老年期の健康障害のある対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる						
授業内容 (講義)との内容)	1. 健康レベルにあわせた高齢者の理解 2. 入院中の高齢者の看護援助方法 3. 高齢者を支援する家族看護の理解					担当者(時間)	
						専任教員	
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢等、評価表に基づいて評価します						
テキスト							
備考							

授業科目	小児看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期
設定理由	小児各期の健康障害をもつ児と家族を理解し、小児特有の疾患、症状、経過に応じた看護、小児に影響する治療、処置、検査に伴う看護を学ぶ。また、成長発達を踏まえた個別性を重視した看護を実践するための方法、特殊看護技術を理解する。						
学習目標	小児特有の疾患、症状に応じた看護を学び、それに伴う特殊な看護技術の方法について成長・発達をふまえて理解する。						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション・バイタル測定・身体計測 2. 与薬・検査、処置とその介助 3. 小児救急処置 4. 検査・処置、外来から入院時の看護 5. 病気を抱えた子どもの理解 6. 急性期・周手術にある子どもと家族の看護 7. 慢性期にある子どもと家族の看護 8. 終末期にある子どもと家族の看護 9. 障害のある子どもと家族の看護 10. おもな症状に対する看護：発熱、脱水、けいれん 11. おもな症状に対する看護：嘔吐、下痢 12. 演習：小児のフィジカルアセスメント 13. 演習：プレパレーション 14. 健康障害を持つ子供の生活と看護 15. 試験 					担当者(時間) 専任教員(22) 看護師(8)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						
備考	演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	小児看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	小児各期の健康障害をもつ児と家族の看護を実践するため、知識を統合・発展させ、疾患の特徴となる経過を踏まえた看護過程の展開技術を学ぶ。そして、看護過程の展開を通して、知識・技術を応用する能力を養い、小児看護の特徴について具体から学ぶ。						
学習目標	小児各期の健康障害をもつ児と家族の看護を実践するため、知識を統合・発展させ、疾患の特徴となる経過を踏まえた看護過程の展開技術を学ぶ。そして、看護過程の展開を通して、知識・技術を応用する能力を養い、小児看護の特徴について具体から学ぶ。						
授業内容 (講義)の内容	1. 小児の看護課程の特徴 小児の看護過程の展開に必要な知識・情報の必要性 2～6. 各発達段階別・疾患の特徴及び経過別のアセスメントの特徴 1) 気管支喘息の患児の看護 2) 川崎病の患児の看護 急性疾患の症状、処置による心身の苦痛の強い時期～回復期の看護 3) ネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎の患児の看護 発症から在宅(外来通院)に向けての看護 *生活指導を含む 7. 試験(1～6) 8～15. 看護過程の実際 1) 小児気管支喘息患児の看護過程 ①小児の看護過程の特徴 ・疾患を踏まえた観察、苦痛の緩和 ・発達段階をとらえる ・基本的生活習慣の獲得 ・家族への看護 ・退院後の生活支援 ②ヘンダーソンを用いた看護過程の実際 2) 小児白血病の看護過程 事例をもとに看護問題に合わせた看護計画 16. 試験(8～15)					担当者(時間)	
						看護師 (17)	
						専任教員 (13)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						
備考	*手術は経過治療処置別で押さえる。						

授業科目	小児看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1学期～2学期
設定理由	小児期にある対象と家族を理解し、成長・発達段階・健康段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長発達段階に応じた、養育の必要性を理解する。 2. 小児各期の成長発達の過程を理解し、健康障害から生じる成長発達への影響を考え援助ができる。 3. 健康障害や入院生活が小児とその家族におよぼす影響について理解する。 4. 健康障害をもつ小児とその家族に必要な看護援助を安全に行う。 5. 小児看護における継続看護の必要性を理解し、保健医療チームの一員としての自覚をもつ。 						
授業内容 (講義)の内容	幼稚園実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長発達 2. 幼児の遊び、生活習慣としつけの実際 病棟実習・小児科外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児のおかれている環境の理解 2. 小児特有の健康障害と関連する解剖生理・病態、症状、検査、治療処置 3. 観察、コミュニケーションを通じた情報収集 4. 得られた情報の関連づけ、看護介入の必要となる問題点・課題の明確化 5. 小児の成長・発達段階、生活リズム、健康障害を考慮した援助計画の立案 6. 小児の特性を理解した安全・安楽な看護の実施・展開 7. 継続看護・家族看護の必要性について 8. 小児看護における保健医療福祉チームでの看護の役割 					担当者(時間)	
						専任教員	
評価	受け持ち患者に対する看護実践・実習の取り組み姿勢および記録物から評価表に基づいて 評価する						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院) 写真でわかる小児看護技術 インターメディアカ						
備考							

<p>目 授業科</p>	<p>妊産褥婦・新生児の看護</p>		<p>単位</p>	<p>2</p>	<p>時間</p>	<p>60</p>	<p>履修時期</p>	<p>2年次 1学期・2学期</p>
<p>設定理由</p>	<p>妊娠・分娩・産褥の各期および新生児の生理について学習する。母性看護における対象に応じた看護の方法を理解する。また、正常な経過を促進し、正常からの逸脱を早期発見できるよう、事例を用いてウェルネスな視点で症状・経過・看護の方法を学ぶ。</p>							
<p>学習目標</p>	<p>正常な妊娠・分娩・産褥・新生児に関する看護の方法を理解する。</p>							
<p>授業内容 (講義)の内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理 2. 胎児発育とその生理 3. 母体の生理的变化 4. 妊娠とその診断 5. 妊娠期に行う検査とその目的 6. 胎児の発育と健康状態の診断 7. 試験(1~6) 8. 分娩とは・分娩の3要素 9. 胎児と子宮および骨盤との関係 10. 分娩の機序・分娩進行と産婦の身体的変化 11. 産痛・胎児に及ぼす影響 12. 産婦の心理・社会的変化 13. 産褥期の身体的変化 14. 産褥経過の診断 15. 試験(8~14) 16. 新生児とは・新生児の機能 17. 新生児の診断・新生児の健康状態 18. 試験(16~17) 	<ol style="list-style-type: none"> 19. 20. 妊娠期の看護 21. 22. 分娩期の看護 23. 24. 新生児の看護 25. 26. 沐浴演習 27. 28. 産褥期の看護 29. 母乳育児支援 30. ウェルネス看護診断 31. 32. 看護過程の展開 33. 試験(19~32) 	<p>担当者(時間)</p> <p>非常勤講師(10)</p> <p>非常勤講師(10)</p> <p>非常勤講師(10)</p> <p>専任教員(30)</p>					
<p>評価</p>	<p>筆記試験</p>							
<p>テキスト</p>	<p>医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護各論 メヂカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術</p>							
<p>備考</p>	<p>演習に関しては複数講師で対応する</p>							

授業科目	周産期におけるハイリスク時の看護	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 2学期
設定理由	臨床における周産期看護においては、正常と異常との境界が明瞭ではなく正常ではあるが、異常へ移行のおそれがある状況が多く存在する。このことからハイリスクという考え方で周産期におけるハイリスク看護を学ぶ。						
学習目標	正常ではあるが異常へ移行する恐れのある妊婦に対する看護の方法について理解する。						
授業内容 (講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠悪阻・重症妊娠悪妊婦の看護 切迫流産・切迫早産妊婦の看護 2. 前期破水・早期破水時の看護 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 3. NST・CTGの異常 胎児機能不全NRFS 陣痛の異常（微弱陣痛・過強陣痛） 4. マタニティブルーズの看護 子宮復古不全 帝王切開を受ける妊産褥婦・新生児の看護 5. 母乳育児支援 乳腺炎の看護 6. 新生児の低血糖・低体温・新生児黄疸 7. 流産・死産・新生児死亡におけるグリーフケア 8. 試験 					担当者（時間） 非常勤講師 (15)	
評価	筆記試験						
テキスト	医学書院 系統看護学講座 母性看護各論 メヂカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術						
備考							

授業科目	母性看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1学期～2学期
設定理由	<p>看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進してゆくために必要な知識・技術・態度を学習する。</p> <p>主に妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象を全体的に捉え、母子の発達段階を考慮した個別的な看護実践の方法を学ぶ。</p>						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある母子の全体像が理解できる。 2. 妊産褥婦および新生児の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 3. 母子の発達段階を考慮した援助ができる。 4. 生命の尊厳や母性看護について、自己の考えを深めることができる。 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期にある対象の看護 2. 分娩期にある対象の看護 3. 産褥期にある対象の看護 4. 新生児に対する看護 5. 母子の愛着形成を促進する看護 6. 家族関係を支援する看護 <p>※ 総合周産期母子医療センター見学実習1日、 学内実習3日、臨地実習8日</p>						担当者（時間）
							専任教員
評価	<p>事前学習、実習記録の内容および提出期日を守る、など記録に関する全て 実習中の学ぶ姿勢、接遇など実習中の行動 上記内容および評価表各項目による実習指導者評価と教員評価による総合評価で評価する</p>						
テキスト	<p>医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 メヂカフレンド 母性看護技術</p>						
備考	学内実習中に沐浴技術の確認を担当教員から受ける必要があります						

授業科目	精神看護学概論	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	近年、さまざまな精神健康上の問題をかかえ、ケアを必要とする人々が増えそのニーズも多様化している。そのため、精神看護の考え方や方法が必要とされる時代となってきた。そのため、現代社会の現状から精神看護に求められていることについて学ぶ。						
学習目標	現代社会の現状から精神看護に求められていることについて理解する。						
授業内容（講義）との内容	1. 「心のケア」と現代社会 2. 精神看護学とその課題 3. 精神障害の体験と精神看護 4. 精神看護学でなにを学ぶのか①（個別性と普遍性） 5. 精神看護学でなにを学ぶのか②（人と人との関係性の理解） 6. 精神看護学でなにを学ぶのか③（精神看護の基本的考え方） 7. 精神看護学でなにを学ぶのか④（「看護過程」について） 8. 試験					担当者（時間）	専任教員（15）
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学②精神看護の展開（医学書院）						
備考							

授業科目	精神の発達と健康	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 2学期
設定理由	精神はどの発達段階の人間も持ち合わせているものである。そのため、ここでは人間の精神の健康の保持増進を図るための精神看護の役割について学ぶ。						
学習目標	精神の健康の保持増進を図るために、精神の発達や働き、精神看護の目的、看護の対象について理解する。						
授業内容 (講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の発達と健康 2. 世界・文化・診断、「基準」「ふつう」とは 3. レジリエンス 4. 全体としての家族 5. 予診のロールプレイ 6. グループ 7. 試験 					担当者(時間) 非常勤講師(15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)						
備考							

授業科目	地域精神保健	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	精神に障害をもつ患者が退院した後も安定した地域生活を継続するために必要なことは何か、また、入院することなく地域で精神の病を抱えながら生きている人々を援助するために必要なことは何か、看護師として必要となる知識を学ぶ。						
学習目標	精神に障害をもつ患者が退院した後も安定した地域生活を継続するために必要なことは何か、また、入院することなく地域で精神の病を抱えながら生きている人々を援助するために必要なことは何かを理解する。						
授業内容 (講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2. 地域で生活するための原則 3. 生活を支えるための社会資源・サービス・地域包括ケア 4. 地域での看護の実際 5. 学校における精神保健と精神看護 6. 職場における精神保健と精神看護 7. 災害と精神看護 8. 試験 					担当者(時間)	
						保健師(15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)						
備考							

授業科目	精神に障害のある人の看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	対象に応じた精神看護を実践するために必要な技術を学び、精神に障害のある対象の看護について学ぶ。						
学習目標	対象に応じた精神看護を実践するために必要な技術と、精神に障害のある対象の看護について理解する。						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回復を支える精神看護について 2. 精神科の治療と身体のケア 3. 安全を守る 4. 精神障害を有する人の地域移行支援 5. 『ビューティフルマインド』鑑賞 6. ケアの人間関係① ケアの前提 7. ケアの人間関係② ケアの原則 8. ケアの人間関係③ ケアの方法 9. ケアの人間関係④ 関係をアセスメントする 10. ケアの人間関係⑤ チームのダイナミクス 11. ケアの人間関係⑥ リフレクティング・プロセス 12. ケアの人間関係⑦ グループワーク 13. ケアの人間関係⑧ 発表 14. グループワーク 患者・看護師の感情を考えてみる 15. 試験 					担当者(時間) 看護師(9) 非常勤講師(21)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)						
備考							

授業科目	精神看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1学期
設定理由	人間の精神の健康を成長・発達・社会適応の面からとらえ、精神の健康の保持・増進、精神障害の予防及び精神の障害がある個人及び家族の理解を深め、看護の役割を学ぶとともに、自己洞察する能力を養う。精神看護学実習で培われる学びは、他領域の看護援助の礎となる。そのために確実な精神看護の知識・技術・人間を見る力を習得することが望まれる。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神健康上に問題のある人やその家族を理解し、信頼関係を結ぶことの重要性を学ぶ。 2. 精神健康上に問題のある人の身体的・精神的・社会的側面を知り、総合的に理解する。 3. 精神健康上に問題のある人への日常生活行動の自立の程度に応じた看護の方法を学ぶ。 4. 精神健康上に問題のある人の可能性に目を向け、社会に適応するための援助方法を学ぶ。 5. 精神健康上に問題のある人を取り巻くキーパーソンの重要性を理解する。 6. 保健・医療・福祉のコメディカルの人々の連携と役割を理解する。 7. 社会資源の種類及び活動状況を理解する。 8. 看護者自身がケアの中心的道具となることを体験し、看護者－患者関係の発展過程を理解し、治療的関わりの技法を学ぶ。 9. 看護援助やそのふりかえりを通して、自分の感情や行動特性に気づき、自己のあり方や自己洞察を深める能力を養う。 						
授業内容（講義）の内容	精神看護学実習Ⅰ 1. 精神に障がいを持ちながら地域で生活している人の理解 精神看護学実習Ⅱ 1. 精神に障がいを持ち入院生活を送っている対象の理解					担当者（時間） 専任教員	
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢から評価表に基づいて評価する						
テキスト							
備考	精神看護学実習Ⅰは、養和病院の社会復帰施設で実習を行う。 精神看護学実習Ⅱは、養和病院と鳥取医療センターで実習を行う。						